

人にも環境にも優しい。そんなお米を作りたい。

三重県立相可高等学校 廃棄物利用による有機稲作の実践

安心
安全

おいしい
みずい

私たちが目指す稲作

- 農薬や化学肥料を栽培期間中使用せず、安心・安全で環境負荷の少ない稲作を目指します。
- 地域の廃棄物課題を解決し、持続可能な発展への貢献を目指します。
- 水田の生態系を大切に、水田の生物に配慮した管理を目指します。

取り組み内容



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



【地域の廃棄物を有効利用した土づくり】

化学肥料の代替として産業廃棄物を有効再利用することで地域の産業廃棄物を削減しました。

①ホクト株式会社多気工場 廃菌床（年間約20t削減）

生堆肥として10aあたり約10t散布

②内藤製餡株式会社 餡粕（年間約20t削減）

相可高校で肥育する松阪牛の牛糞と発酵させ、堆肥を作成
完熟堆肥として10aあたり約3t散布

【淘汰される命を除草に利用】

観賞用に養殖される鯉は、1回に約60万個産卵するといわれています。しかし孵化後に育てられる稚魚は数100匹で、残りは淘汰されてしまいます。この捨てられる命を譲り受け、水田に放流しています。鯉がエサを探し水田を泳ぎ回り、泥を掘り返すことで、除草剤を使用せずに雑草の発生を防いでいます。

【水田生態系に配慮した管理】

農薬の影響を受けないため、自然本来の生態系が構築されました。

オタマジャクシやヤゴなどが成体になるまで中干しを延期することで水田生物の保全に配慮しました。

成果

【人に優しいお米の収穫】

取り組みを始めた当初の収量は10aあたり100kgでしたが、

4年目となる今年は化学肥料に頼らずに10aあたり350kgを収穫することができました。

【環境に優しいお米の収穫】

堆肥による土作りはCO₂を土中に閉じ込め、温室効果ガスを削減できました。

また、水田生物に配慮した管理によって生態系を保全できました。

これらの取り組みは農林水産省「みえるらべる」において星3つの評価をいただくことができました。

【地域に優しいお米の収穫】

地域の廃棄物を削減し、課題の改善に貢献できました。

収穫したお米は、ふるさと納税返礼品として地域の発展を応援しています。

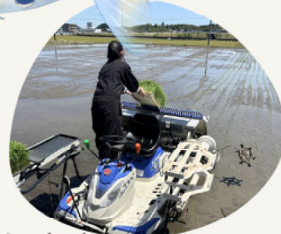
私たちが創る未来

私たちが有効活用できる廃棄物はほんの一部です。

より多くの方に有機の廃棄物堆肥の魅力を知っていただき、使用していただく必要があります。

そのために、私たちの取り組みをより魅力あるものに、発信していきます。

より多くの人に、環境に、地域に優しい未来を目指して、私たちは取り組みを続けていきます。



登録番号：2024-1013-0403

